

297 中央大学記念日

『法学新報』第21卷11(248)号 明治44年12月1日

○中央大学記念日 去月十一日は同学第二十六回創立記念日に相当するを以て大講室に於て同日午後一時より記念式を挙行、先づ学生総代植木寿雄氏は凡そ記念式の趣旨とする所は既往を追想するに在りとして簡単に本学の沿革を述へ創立以来本学が終始一貫堅実なる主義綱領の下に教育に従事せること、出身者の学識豊富に加ふるに高尚なる人格を以てすることは実に天下に誇るに足る所なり吾吾学生は発奮興起大に校風の在る所を察し先進の好模に倣ひ努力する所なかるへからすと論じ了はるや理事奥田博士は徐ろに演壇に現はれ本学の起源、経営並に維持の方法等を詳述す曰く本学は素数人の発起者により創設せられたるものなれとも特定人の私有に属せず共同のものとして経営し来りたり年月の経過と共に発起人中に死亡者を生し又出身者中には錚錚たる人物輩出したれば発起人の外一定数の学員を以て維持員となし其協議に依りて経営することなれり最初本学は法人ならざりしか近年に迫ひて之を社団法人とし維持員の名称を廢して社員と為し社員中より理事を選任して日常の事務に當らしむることとなりたり然かも本学の維持は少数社員の能くする所にあらず出身者全員の熱誠なる後援あるに因るものにして其事は二十年及び二十五年の記念講堂の建築に見るも明かなる

所なるへしされは本学は學員一同の所有に属するものとも謂ふべきものにして諸子は今日學生として本学構成の分子たるか卒業の後と雖も矢張學員として本学維持の責務を有し各自己のものとして之を存続せしめざるへからざるもの決して之を他人のもの如く視ること能はざるなり本学の将来に於ける發展は諸子の力に俟つ所大なりとす曰く本学は創立当時より質実を趣旨とし形式の華美を装ふことを最も厭ひたるものにして此精神は現在固より将来と雖も決して變更せらるることなかるへし世間或は力に余る借財を為し或は商賈にも劣らざる如き広告等を為して得意とする者なきにあらざれとも其事の良否善悪は言はず兎に角左様のことは本学の精神と相容れざるか故に決して之を為さざるなり又本学は英法の研究を尙ふより万事に實際的にして形式の完備を重んずして事務の弁するを以て足れりとせり今日の學生諸子の中には或は不思議に思はるる向もあるへけれども本学にては左様の点に付ては可成出費を避け教育の實質的方面に向つて全力を注かんとしつつあるなり曰く要するに本学は諸子と離れたる別箇のものにあらず諸子と本学とは合体して一たるもの、能く本校の精神を体して切磋の功を積まれんことを望むと次に講師太田資時氏は自分の見る所に依れば英法を研究する者は其相互の關係極めて親睦にして仏独の法律を研究する者と大に趣を異にする所なり是れ仏独の法律と英米の法律とは其研究の方法を異にするに因る歟仏独は理に流れ英米は実就く從て知らず識らすの間に研究者の心裡に人情の相違を来すものにあらざるなきを得んや本学は英米法理の研究を標榜し

て世に立つもの而して母校と出身者及び出身者相互間の親密にして和氣霽然たるものあるは実に天下に其類例を見ざる所なり諸子にして卒業の上は先輩の援助に浴し得ることは疑を容れず余は本日此記念日に際し本学の特色を称揚すると共に諸子の奮勵を祈る者なりと述ふ是れにて式を閉ち夫れより当日の余興たる海老一一座の太神楽は鼓声一打会衆を一堂に集め奇手妙技を尽し或は滑稽人を笑殺せしむるものあり次て細川風谷、浪花節友重等各得意の技を振ひ満堂をして酔はしめ孰れも喝采声裏に演了し時既に予定の時刻に達したるを以て兼て準備せる十数室の模擬店は一時に開店せり二千の學生は思ひ思ひにそば屋、うどん屋、しるこ屋、おでん屋、栗餅屋等に押寄せ其繁昌筆紙の尽すへきにあらず何れも満腹を鼓して各所に団欒高談豪語に時を移して散会せり學員諸氏は夫れより記念大講堂に於て秋期總會を開き一同席定まるや石山理事は立て開会の辞を述べ且本年度の卒業生柳沢伸衛外七十名は新に入会せられたる旨を報告し次て田中草也君外九名を學員に推薦の件は満場異議なく可決理事評議員改選の件は前例に依り学長の指名に一任することとし且菊池学長病氣に付き學員会より見舞すへき事を議決し其見舞に行く人選は石山理事に一任する事とし同理事は即座に磯谷幸次郎、林頼三郎、川島任司、田中文蔵、卜部喜太郎の五氏を選任し夫れより杯盤の間奥田博士、元田拓殖局總裁の卓子演説あり互に歡興を恣にし愛惜の袖を別ちたるは午後九時なりき而して当日来会者の重なる者は磯谷幸次郎、石山彌平、伊藤久次郎、井上敬吉、林頼三郎、原重太郎、堀川寅次郎、星野照、鳥山喜

一、奥田義人、岡田泰蔵、小山残平、渡辺豊治、渡辺澄也、渡
辺英三、笠原文太郎、川久保源治、川島仔司、川手忠義、横田
民造、吉田孝、滝村斐男、田中文蔵、武田明、高崎介蔵、高野
金重、竹内卷太郎、田口碩次郎、竹越英一、田中信一郎、田村
隆平、辻本友次郎、中村惣平、難波弁太郎、柳沢慎之助、山浦
橘馬、山本一蔵、卜部喜太郎、松沢卓規、松岡高明、丸山忠一、
松尾参三郎、古谷伊平、古田良三、福田恕人、児玉利庸、小松
林蔵、手代木祐寿、寺島由松、安藤亮、新井要太郎、天野徳也、
浅野庄太郎、佐藤正之、佐々木祥吉、三宅碩夫、宮部準次、宮
崎三郎、志賀三行、広井辰太郎、元田肇、粉倉作助、瀬下清通、
鈴木濟美、杉田卷太郎の諸氏なりし